

今回の訪問先



リレー訪問 農場に勤める

誇りと夢

第27回 [後編]

意欲に応じてくれる
会社のもとで、
自分を磨き、結果を出す

卵や鶏肉などの生産・販売を行なうコッコファームの塚氏を訪問した大串農園の森氏。今回は、塚氏が就農した経緯や同社に入社した後の人材育成の様子、上司との関わり方など、勤める側から見た農場について語り合った。



今月のホスト
(有)コッコファーム (熊本県菊池市)

塚 浩司 (26歳)



今月のゲスト
(有)大串農園 (高知県宿毛市)

森 誠 (28歳)



社員教育がやる気を支えた

森 堺さんが農業に関心を持ったきっかけは何だったんですか？

堺 この会社で働き始める前に北海道の牧場で半年間だけ働いていたことがあるんですが、そこでの経験が大きいですね。

森 牧場で働いたことがあるんですね。

堺 農業に興味があつて働き始めたわけではないんですが、農場にいたお爺さんとお婆さんに、生き方や牧場の牛に対する接し方など、いろいろなことを教えていただきました。黙って牛に近づいたりすると、もの凄く怒られて「牛と話せるようになれ」と諭されたり、時には「お前はこうしてここで働いているんだ。よく考えろ！」ということまで言われました(笑)。

森 なんだか刺激的ですね(笑)。

堺 とにかく考えさせられることが多くて、いろいろな話を聞いたり体験するうちに、自分の価値観や考え方も変わっていききました。牛に対しても「今日は元気か？ 調子悪くないか？」と声をかけながら接するようになって、そうやって仕事をしていくうちに、本格的に生き物と一緒に仕事をしていきたいと思うようになり

なりました。それで熊本に帰ってからコッコファームの存在を知って応募したわけです。

森 そういう経緯があつたんですね。でも、いま担当されている仕事では、卵の選別や品質管理をされているんですよね。鶏と直接関わる仕事ではないと思いますがその点は気になりませんか？

堺 入社して最初に配属されたのは「成鶏」という鶏の管理をする部門なんです。その後、転属して今の仕事をすることになったんですが、それでも生き物に関わる仕事という点では変わらないと思っています。実際、卵の品質には鶏の状態も影響するので、日々、その様子は気にしています。それに、仕事の一連の流れがどうなっているのかは、ずっと知りたいと思つていたのであるんです。

森 そうなんですね。それにしても、コッコファームさんはスタッフ数や部門数が多いですし、いわゆる農業の働き方のイメージとは違うところがありますよね。その点で当初のイメージとずれるを感じるようなことはありませんでした？

堺 特にそういうことは思いませんでした。入社当初はとにかく仕事を覚えたい一心で、この仕事に燃えていました。つらい仕事でも何でも来

いという感じでした。その気持ちは今も変わらないんですが、そういった時期に社内研修があつて、上司もきちんと指導してくれる体制があつた。むしろ嬉しかつたですね。

森 僕は生産現場の責任者をしているんですが、新人を育成するのは結構大事なことだと思うんですよ。そのため、準備を進めたいと思つているところなんですが、やっぱりやる気に応えるような体制づくりは大切なんですね。

堺 僕の場合は、この会社に入社するまでの間にいくつかの仕事を経験して、そういった中で納得できないこともたくさんありました。そうした想いが積み重なつていたこともあつて、この会社のように体制が整つているというのがあるがたかつたですね。

2年後の社長交代に向け自分に磨きをかける

森 若いスタッフだけで勉強会のようなこともしているそうですね。

堺 はい。35歳までのスタッフが参加できる「ニューリーダーの会」というのがあります。僕も含めて30人くらいのスタッフが参加していて、仕事とは別に、イベントや研修、地域への奉仕活動といったことを若手が主体的に進めています。



堺 浩司

さかい・こうじ●1982年熊本県生まれ。高校卒業後、東京、福岡、北海道などで様々なアルバイトを経験。03年熊本県に戻り、(有)コッコファーム入社。現在、卵の選別や出荷などを行なう選卵部門で工場長を務める。



森 誠

もり・まこと●1979年高知県生まれ。高校卒業後に上京し、大手スーパーの鮮魚課、青果課に勤務。04年高知県に帰郷し、(有)大串農園に入社。07年より生産課の課長として生産現場全般の管理を行なう。



農場を訪問した森氏に、卵の品質や保存方法などについて解説する塚氏。

森 そういう会があれば部門数が多くても横のつながりを持つことができそうですね。

塚 そうなんです。普段接する機会の少ないスタッフもいますから。それと、55歳以上のスタッフが参加している「シルバライフの会」というのがあります。もともと地元で農業をしていた方もいるので、この会とニューリーダーの会とで親睦を深めて、技術や積み上げて来られた経験を若いスタッフに伝えてもらったりにしているんですよ。

森 会社はそういうところもしっかり見てくれるんですね。

塚 それに、2年後の2010年には、現在の社長に代わって息子さんが社長に就任することが決まっているんですが、ニューリーダーの会にはそのブレーンを育成するという目的もあります。会の活動では、企画を出して年間計画を立てたり、その収支も考えながら活動しているの、その過程で鍛えていただいているという感じですね。予算は会社から出ているんですが、これをしたらダメだと言われることもなく、本当にやりたいことをやらせていただいています。

森 どうやってビジョンを具体的な形にしていくかということを学べる場にもなっているんですね。こういうことは大事ですよ。この会社の仕組みは本当にしっかりできていますね。

塚 そう思います。何というか、基本的に経営陣も上司もみんな懐が大きいんです。もちろん厳しい面もあるんですが、その一方ではもの凄く暖かい目で見えてくれる。そういうところには惹かれますね。

森 信頼関係もきちんできていますね。

塚 この会社に入社していろいろと教わる中で、人生観が変わるようなところもありました。今思うと、いろいろな出会いがあって方向付けし

てもらったという感じがしています。仕事に関しても、社長は「クレームは宝」と言ってくれているんですよ。もちろんクレームは出ないに越したことはないんですが、失敗を恐れずにやってみて、上手くいかなかったらそこから何か学びとれということだと思っています。クレームがあった場合は、その後の処理をどうしたらいいのかという道標も立ててくれていて、失敗を教訓にして自分の力を高めることができるような仕組みにもしてくれています。

森 塚さん自身のモチベーションもかなり高いですね。将来的には独立して経営者としてやってみたいという思いもあつたりするんですか？

塚 そういう目標があると勉強する意欲もわいてきますし、考えていなければなりません。ただ、それには今やっている仕事を経営者の目線で見られるようになって、農場全体のことで意識が向けられるようになっていけばいいかなと思っています。今はそれよりも、2010年の社長の交代に向けた課題をどうクリアするかという方が気になる場所です。コストを下げつつ品質を向上できるような専門知識も学んでいかないといけないですし、それをアウトプットして結果を出していくことも大切だと思っています。これが当面の目標です。

森 個人的な夢は？

塚 まだ、はっきり思い描けないですね。ただ、停滞していないで前進していけるようなことをしていきたいと思っっています。そのための前向きな考え方も教えていただきましたし、今はとにかく、自分に与えられた仕事をきちんとやっていきたいと思っっています。

森 お話を聞いてみると、ますます農場の目指す方向性には似ているものを感じました。うちの農場はまだまだ未熟ですが、何十年後の姿を見せていただいたような気がします。ありがとうございます。



コッコファーム周辺には、農業を軸にしたテーマパークができる予定だ。